

静岡県における ソフト対策の取組について

◆ 西 川 茂* ◆

1. はじめに

令和3年7月3日に熱海市伊豆山の逢初川で発生した土石流では、記録的な豪雨に加え、源頭部に施工されていた盛り土の崩落が被害を甚大化させ、27名の犠牲者（災害関連死を含む）と未だ行方不明者1名の捜索が続く土石流災害に見舞われました。

この土石流では、盛り土の崩落により想定を大幅に超える土石流が下流域に流下しましたが、被害の範囲は概ね土砂災害警戒区域内となっていました。

しかしながら、土砂災害警戒情報については、発災前日に発表していたものの、適切な避難行動につながらず、多くの犠牲者が出てしまう結果となり、土砂災害から人命を守るソフト対策の重要性を再認識したところです。

この土石流発生後初めてとなる今年の「土砂災害防止月間」を迎え、近年になく県民の土砂災害に対する関心が高いことから、土砂災害防止に関する啓発活動をより一層進めていく必要があると認識しています。今回、静岡県の取組を紹介する機会に恵まれたことから、「土砂災害防止月間」の活動について報告します。

2. 「土砂災害防止月間」の主な取組について

(1) 路線バスフロント広告を活用した土砂災害防止の啓発

県内の路線バスを運行するバス会社5社と連携し、バスフロント部の広告を活用し、「日頃の備え」と「早めの避難」を県民に周知しました（写真-1）。

この取組は、昨年度から開始した活動で、コロ



写真-1 バス停で利用者が出発を待っている状況



写真-2 広告幕を掲出したバスの出発式の状況

* Shigeru Nishikawa 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課課長代理

ナ禍で対面での啓発活動が難しい現状とコロナ禍による地域交通の利用者減少を受け、地域交通への支援の活動ができないかとの発想から始めた取組です。

路線バスは、県内の都市部から山間部まで広域に運行され、バスの運行時間（特に明るい時間帯）は長時間にわたることから、路線バスを活用した広告は、バス利用者やすれ違い車両、歩行者等の道路利用者にも幅広く啓発できる効果が期待できます。

なお、月間の初日である6月1日（水）に、静岡市内のバス営業所において、広告幕を掲出したバスの出発式を開催しました（写真-2）。

(2) 静岡駅コンコースにおける啓発活動

6月2日（木）の通勤時間帯（7時30分～9時30分）に、JR静岡駅のコンコースにおいて、静岡県のほか、国土交通省静岡河川事務所、静岡地方気象台、静岡市と連携し、駅利用者に向けて、

チラシ等を配布するとともに、パネルを展示し、土砂災害防止を呼び掛ける啓発活動を行いました（写真-3）。

静岡県のマスコットキャラクターも参加し、通勤時間帯の忙しい中、多くの方々に立ち止まってもらい、啓発活動を行うことができました（写真-4）。

(3) 防災訓練時に講習会を開催

土砂災害・全国防災訓練では、住民参加の防災訓練の他に、行政間や砂防ボランティアによる情報伝達訓練等を実施しました。

住民参加の防災訓練では、防災行政無線を活用し住民避難を呼びかけ、一時避難場所への避難を行いました（写真-5）。避難場所において、砂防課の職員等が「土砂災害防止講習会」を行い、地域の危険な箇所の確認方法や避難のタイミング、避難方法などについて説明しました（写真-6）。昨年の熱海市の土石流災害を受けて、土砂災害へ



写真-3 駅利用者にチラシを配布している状況



写真-4 静岡駅コンコースでの啓発活動の状況



写真-5 住民参加の防災訓練の状況



写真-6 防災訓練時の講習会の状況



写真-7 砂防フェスティバルの状況

の関心が高く、高齢者から子供まで多くの方々に参加して頂きました。

(4) 砂防フェスティバルの開催

6月18日（土）に静岡市葵区役所西側の青葉シンボルロードにおいて、「みんなで防ごう土砂災害」～砂防フェスティバル2022～を開催しました。

砂防フェスティバルは、6月の土砂災害防止月間に合わせ、県内で砂防関係事業に関わりのある直轄砂防事務所、静岡地方气象台、静岡県、静岡市が各ブースに分かれて、土砂災害防止の啓発のため、各機関の取組を模型展示や動画、パネル展示等、趣向を凝らした説明を行いました（写真-7、8）。

当日は開始早々に雨となり、入場者数も低調になってしまいましたが、入場された方々に対して、雨宿りを兼ねて、各機関の取組について丁寧に説明することができました。

3. 取組の効果について

今回紹介した項目について事前に報道機関へ情報提供を行い、取材に来た報道機関を通じて県民へ広く情報発信することもできました。

一方で土砂災害防止月間中、コロナ禍は収束に向かっていましたが、土砂災害・全国防災訓練への参加を見合わせる自治体があったことから、土砂災害よりもコロナ対応を優先させている現状も確認できました。

今後、このような自治体に対し、コロナ対応を



写真-8 パネルを見ながらクイズの回答をしている状況

した防災訓練の実施を促し、土砂災害に対する避難指示の発令が適切に行えるよう、県として働き掛けを行っていきたくと考えています。

4. おわりに

コロナ禍により、これまで活動を自粛していた防災訓練や出前講座、イベント等の対面での活動が徐々に再開できるようになってきました。しかしながら、コロナ感染の拡大を防止するため、祭りなどの地域イベントの中止などにより、地域コミュニティが薄れる中、防災訓練などが災害時の行動の確認に留まらず、災害時に助け合いや声掛けなどが行える地域コミュニティの再構築の機会にもなると感じます。

避難を促すという目的は変わらないものの、その時代の課題を考慮した啓発活動の必要性が求められ、「路線バスフロント広告を活用した土砂災害防止の啓発」は、このような社会的状況においては有効な啓発活動であったと考えています。

なお、日頃から土砂災害のおそれのある場所や避難場所等を確認し、どのタイミングで避難すべきかの情報収集が早めの避難行動につながっていくことから、引き続き防災訓練や防災講習会等の啓発活動に努めてまいります。

最後になりましたが、当県の「土砂災害防止月間」にご協力いただきました皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。